

議員定数に関する市民の声

1 旭川市議会に対する陳情（過去5年間）

陳情及びその趣旨	
6	<p>【陳情第17号 旭川市議会の議員定数削減のあり方について（平成24年6月18日受付）】</p> <p>これまでのような市民には理解できない漠然とした形で議決するのではなく、市民が一目瞭然、定量的に理解できるように、まず、第一に議員提案して審議、公表されるよう陳情する。</p>
7	<p>【陳情第19号 旭川市議会の議員定数について（平成24年9月5日受付）】</p> <p>これ以上の議員定数削減は少数意見排除につながるものであり、また、少数意見を尊重すべきであることから、旭川市議会の議員定数を現在の36人から40人とするよう陳情する。</p>

2 「平成23年度市民と議会の意見交換会」における意見等

1	議員定数は半分でよい。
2	議会改革の話があったが、議員定数の削減について平成15年には40人であったものを36人に減らした。もっと減らして少数精鋭とし、代りに報酬を上げる方が市民に対する貢献になると思う。市議会議員の皆さんは政治家であって政治屋ではないということを理解してほしい。
3	議員定数や報酬は多くても構わない。それだけの働きをして、市民の生活を良くしてほしい。
4	議員定数を削減しているが、旭川の人口も35万人となり、あと2人くらい削減しても良いのではないか。
5	議員定数の削減を考える必要はないのか。25人くらいで良い。 役職加算の廃止も検討されるべき。海外視察派遣の廃止は当然である。市政に対する住民の関心が低い。
6	議員職を生活の糧のために職業とされているような方もいる。そのような議員には出してもらわないほうがよい。だから議員定数を減らして30人でもよいになってしまう。もっと質の高い議員が出てもらいたいと思う。
7	今年の春に議員定数削減が議会で取り上げられ、これまでどおり36人となった。議会は執行側と違い、多様な市民意見を反映できる場所であるから、報酬がどうあるかは別にして、削減はしないほしい。
8	この意見交換会は議員を迫る場ではなく、聴衆も対話の姿勢を持つべきと思う。議員定数をいたずらに削減する考えには反対。 費用弁償は廃止で良かったと思うがそのことで議員の欠席が多くなってはいないか。また、議員の出欠状況は公開したほうが良いのではないか。
9	議員定数削減や報酬の議論においては、中核市など他都市との比較などは必要ないのではないか。北海道第2の都市といっても、経済規模からいえば帯広市、函館市より下に位置するのが現状である。
10	議員定数について、1万人に1人というのは決して多くないので削減には反対である。

11	議員定数削減には反対。議員が良いセンスを持って活動してもらえば良い。議員数は足りなくらいで、もっと勉強しなくてはならない時代である。若い議員や高齢の議員など多様な世代が当選していくことが望ましいので、減らすことが良いとは思わない。
12	議会改革の取組、特に定数を何回か削減してきていることについては高く評価している。そこで、現状の議員定数36人、人口1万人に1人という割合は、全国の他都市と比較してどのような状況にあるのかお聞きしたい。
13	議員定数削減について、前回の議会では否決された。財政が厳しい中でなぜできなかったのか。今後どうしようとしているのか。議会としてどのように考えているのか。
14	しっかり活動していればもっと多くの議員がいてもよい。中には自分の生活のためにやっている方もいるから問題だ。政務調査費の使い方を見ても交際費や交通費に使っている状況があるのではないか。視察に行ってきましたというハガキをもらったことがあるが、行ってきて終わりではなく、その後どう市政に反映されたのかが重要だ。報酬は他の街がどうだからということではなく旭川市の実態を見て考えるべき問題。議員は議案提案があってから判断するだけか。議会だよりを見ても答弁調整ばかりで突っ込んだ議論がなされていないのではないかと感じる。十分に活動してくれるのであれば議員数は多くても構わない。議員にはもっと市民のために汗をかいてもらいたい。